

目次

天津師範大学 DD 学生第 2 期生帰国

国際インターンシップ参加報告

第 9 回天津師範大学語学文化研修

インドネシアからの交換留学生

国際交流ニューズレター No. 16
三重大学教育学部国際交流委員会
2012（平成 24）年 4 月 11 日発行

天津師範大学 DD 学生第 2 期生帰国

三重大学での留学生活

天津師範大学 DD 学生第 2 期生 常毅

日本に来てからもうすぐ半年になります。三重大学での留学生活があっという間に過ぎました。半年前にはじめて三重大学のキャンパスに着いた頃の情景は目の前に浮かんできました。重たい荷物を持ちながら三重大学のキャンパスに立っているあの頃の私たちは、留学という大きな夢を抱いて、目の前の斬新な世界で素晴らしい思い出を作りたいと思いました。

この半年間、日本語を上手になりたい、新しいことを挑戦してみたいという気持ちで、授業を受けたり、大学の様々な活動に参加したりしました。私たちの未来の人生にとって、とても役に立つと思います。この短い留学生活を振り返ってみると、日本語を学ぶことだけではなく、様々な日本事情を知ることができ、日本人や日本社会に対する理解も一層深くなりました。授業で学んだ知識、および日本文化に対する認識を使って、日中両国友好のための架け橋になりたいです。

三重大学で留学している間に、三重大学の先生方のご指導のもとに、日本語学習の方も、日常生活の方も順調に進むことができ、誠にありがとうございました。授業中にわからないところがある場合は、先生に聞けばいつも親切に教えていただき、生活上に困ったことがある場合は、先生方と相談すれば、悩みがなくなり、問題を解決できるようになりました。三重大学の先生方に心より感謝いたします。

半年の留学生活を通し、日本語能力の成長と自分自身の成長を実感しました。日本語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という 4 つの技能が高まるとともに、「感じる力」「考える力」「生きる力」もだんだんと伸びてきました。また、日本事情を学ぶことによって、もう一回自分の国のことを冷静に見直すことができるようになりました。三重大学での留学生活は短いですが、この留学生活は私たちにとって必ず一生忘れられない貴重な経験になると思います。

充実した留学生活がもうすぐ終わるときに、この場を借りて、あらためて三重大学の先生方に深く感謝を申し上げます。



東先生と奥さんと山田先生と、寮の前で

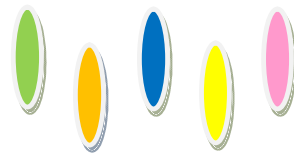


みえ国際子供支援フェスティバル



手塚先生と一緒に寮で日本料理を作る





国際インターンシップ タイ東北部コンケン大学にて

日本語教育コース 安達咲子

2月の13日から3月の12日の1ヶ月間、タイ東北部にあるコンケン大学教育学部にて、インターンシップに参加させていただきました。

研修の仕事内容は、授業の補助や会話練習の補助、テストの採点などでした。また、3週目からは、日本語ブラッシュアップコースを開講して頂き、少人数の生徒に対して初級日本語の復習授業を行いました。純粋で素直なタイ人の学生と楽しく授業することができました。また、国際交流基金のセミナーにも参加させていただきました。「『Can-do シラバス』を使って『あきことともだち』を教えよう」という内容の講演でした。セミナーの中では模擬授業を行い、ベテランの先生から意見をもらうことができ、大変勉強になるセミナーでした。



授業風景

もちろん研修ばかりではなく、現地のタイ人の学生とたくさん交流することができました。昼食や晩御飯は学生から誘ってもらい一緒に楽しく食べることがほとんどでした。時には、友達が友達を連れて来て、またその友達が友達を連れて来て、というようにどんどん友達の輪が広がっていくこともありました。タイの人は、ほほえみの国の名の通り本当に親切な人が多く、1度会っただけでも、とても親切にしてくれました。週末には、スリンという田舎町の友達の実家に泊まらせてもらい、象を見に行ったりすることが出来ました。お湯も出ないところで、お金もあまりないはずなのに、言葉も通じない私にとっても温かく接してくれました。タイの人と出会ったことにより、もっと出会いやつながり、絆を大切にすべきだと感じることができました。



遊びに行った様子

研修では、様々な教材を使った教え方や、セミナー参加などで、日本語教育の難しさを改めて知ることができました。まだまだ自分には知識が足りないと思うことも多かったですが、もっと知りたいと思うようになりました。私は外国人児童に興味があるため、ここで学んだ教授法や、学習者の気持ちを活かし、将来に役立てたいと思います。

天津師範大学語学文化研修に参加して

教育学研究科学校教育専攻課程 A 系列 佐藤由佳

3月8日（木）から15日間、教育学部の学部生3名、院生1名、人文学部の学部生4名の計8名が、天津師範大学での中国語講座に参加させて頂きました。私自身は実は中国語の知識はほぼありませんでしたが、基礎だけでも学ばせて頂きながら、中国の脈々と受け継がれてきた歴史と近代化した今の町から、その文化を学びたいとの思いで臨みました。

到着日に歓迎会を開いていただき、翌日から午前中は授業、午後からは観光や書道、太極拳体験、学生さんとの交流会等盛り沢山のスケジュール。授業では先生方の話される中国語の美しさ、言語に込められた歴史や相手への配慮等に浸りながら、先生方に少しでも近づこうと懸命に挑戦しました。先生方は私たちの生活も気遣いながら、実践的な言い回しを沢山教えて下さいました。観光では長い歴史を持つ中国の文明が、時に雄大に、時に繊細に目の前に現れ、ただ圧倒されるばかりでした。受け継がれる文明と、近代的な街並みとの間に流れる時代の流れに思いを馳せました。

エネルギーが豊富な町や人々に圧倒されながら、初めは戸惑い、少なからず不安を覚えました。瞬く間に時は過ぎていきましたが、授業で習う言葉が町で活かされ、相手の思いを受け取り、こちらも伝えようとする事で思いが通じ合った時の喜びの大きさは計り知れません。

今回、研修の機会を与えて下さった天津師範大学と三重大学の先生方に感謝申し上げます。特にお世話して下さいました馬先生と武先生、引率の林先生には、生活面から勉強面においても配慮を頂き本当にありがとうございました。先生方の御陰で私達は学びに集中することが出来ました。そして共に過ごした仲間は学部も年齢も、中国語の理解度も異なりましたが、楽しい仲間と出会えたからこそ得られるものが沢山ありました。学んだことは違っても、今回の経験はそれぞれの将来に活かされていくでしょう。

短い期間でしたが、濃密な時間をありがとうございました。



天師大の学生との交流



石家大院の前



天安門広場にて

My Impressions on Japanese Life

Iin Mutmainah

Iin Mutmainahさんは、インドネシアの Haluoleo 大学で 3 年を終えて昨年 10 月に三重大に来ました。Haluoleo 大学から三重大への最初の交換留学生である 5 人のうちの一人です。現在は英語教育講座の早瀬光秋先生のもとで英語教育を中心に学んでいます。



I come from a place far away from Japan called Indonesia as an exchange student thanks to a scholarship. Japan is in many ways different from the place where I lived before I came here. I am experiencing new culture such as the rules of wearing and not wearing footwear, the habit of using a bicycle often, the admission of drinking alcohol for citizens over 20 years old, and the value of working.

First, the Japanese people are very particular about where they wear their footwear. They never wear shoes inside the house. In Indonesia, sometimes we are not allowed to wear shoes or sandals in particular rooms, but in Japan, they take this to another level. Also, in Japan shoes are not appropriate in many other places, either. No shoes in temples, shrines, and even in clinics. In one clinic I was surprised as everyone who entered the clinic had to take off their shoes and wear sandals or “surippa” that were provided there. Besides, there was no exception about this. One day, I saw some elderly people trying to take off their shoes and put on slippers, but it was so difficult for them to do so. I felt a great pity for them because most often elderly people have difficulty in bending themselves.

Second, the bicycle seems to be a must in Japan. In fact, when Japanese people have a car, they also have a bicycle. Even university instructors do not feel embarrassed when riding a bicycle in public. It is a common thing in Japan and it makes me excited.

Third, I was shocked when I attended a party for the first time in Japan. I saw there were many kinds of alcoholic beverages there. Before the party began, all people had to say “kanpai” while toasting together. As the party went on, there were many people who got drunk; it was also the first time for me to see drunken people firsthand.

Last but not least, *“money can only be obtained by working”*. Probably, this is the basis of life for Japanese people. Even Japanese people who are advanced in age are still working. It seems that Japanese morale is very high. It is different from Indonesia where elderly people are prohibited to work by their children who have a good job. It is because children have responsibility to repay their aged parents.

All those things I have seen and experienced make me aware that the cultural diversity is something we cannot deny. The positive value in this country which agrees with my belief becomes something that I will use in the rest of my life in order to be a good person and to live a better life.